

自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	芽室町立芽室中学校
-----	-----------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

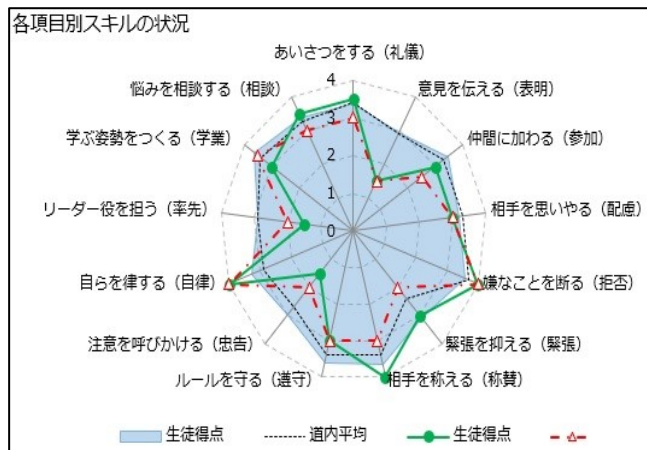
研修等の実施日	令和5年8月23日(水)、9月20日(水)	研修参加人数	37人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 自殺予防教育プログラムの3つの目標に係る全教職員の共通理解及び自殺予防教育プログラムモデルプランを活用した年間指導計画の見直しについて 子ども理解支援ツール「ほっと」の結果分析の仕方や、結果を活用した教育相談について 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> 中学校段階で行う自殺予防教育の重要性及び必要性について、理解が深まった。 自殺予防教育プログラムの3つの目標の理解と、具体的な指導計画、授業内容について考える機会となったとともに、「ほっと」を生徒理解の資料として、教育相談に活用していきたいと考えた。 		
研修等で使用した資料名	「子どもに伝えたい自殺予防」(文部科学省) 「児童生徒の自殺を予防するためのプログラム」(北海道教育委員会)		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)																															
A 援助希求的 態度の育成	<p>○ 実践の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談しやすい人間関係の構築を目指し、道徳科や特別活動の時間において、学級担任が、令和5年度児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会で示されたモデル授業を参考に、実際の学校生活場面を想定したロールプレイと、よりよい人間関係づくりを考える学習を行った。特に、①誰にでも心が苦しい時があることを理解すること、②どんなに苦しくても必ず終わりがあると信じること、③誰かに相談できる力を大切にすることを重点として、演習等を行った。 <p>○ 生徒の変容を促す工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が、相談しやすい人間関係の構築について理解を深めることができるよう、実生活に即したロールプレイ及び小集団による意見交流を行い、相手の言葉に傾聴しつつ、相手に主体的な行動を促す例を示し、相談しやすい人間関係の構築及び傾聴することによる共感的理解の重要性について、学級内で共有する学習活動を展開した。 <p>○ 生徒の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月と10月に実施した「ほっと」において、「相談」の項目の得点が、0.2ポイント増加するとともに、「関係維持」の項目における低群の生徒のポイントが6ポイント「仲間強化」の項目における低群の生徒のポイントが3ポイント増加するなど、友人からの相談に対し、傾聴しながら共感的理解を示す姿が多く見られるようになった。 <p>○ 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談しやすい関係を作る上で、相手の思いに寄り添いながら話を聴くことが大事であることが分かった。 自分1人で苦しまず、周りの人に相談することが大事であることが分かり、これから何か困ったことがあった時に、相談してみようと思った。 																															
	<div data-bbox="965 981 1433 1279" data-label="Image"> </div> <p>【特別活動「自分と仲間を守るために」】</p> <div data-bbox="821 1496 1433 1977" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>関係維持の経時変化</caption> <thead> <tr> <th>セッション</th> <th>高群</th> <th>中群</th> <th>低群</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>58</td> <td>50</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>59</td> <td>54</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>60</td> <td>55</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>仲間強化の経時変化</caption> <thead> <tr> <th>セッション</th> <th>高群</th> <th>中群</th> <th>低群</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>58</td> <td>51</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>57</td> <td>49</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>58</td> <td>50</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>【「ほっと」における経時変化】</p>	セッション	高群	中群	低群	1回目	58	50	36	2回目	59	54	42	3回目	60	55	43	セッション	高群	中群	低群	1回目	58	51	40	2回目	57	49	44	3回目	58	50
セッション	高群	中群	低群																													
1回目	58	50	36																													
2回目	59	54	42																													
3回目	60	55	43																													
セッション	高群	中群	低群																													
1回目	58	51	40																													
2回目	57	49	44																													
3回目	58	50	45																													

B 早期の問題認識（心の健康）

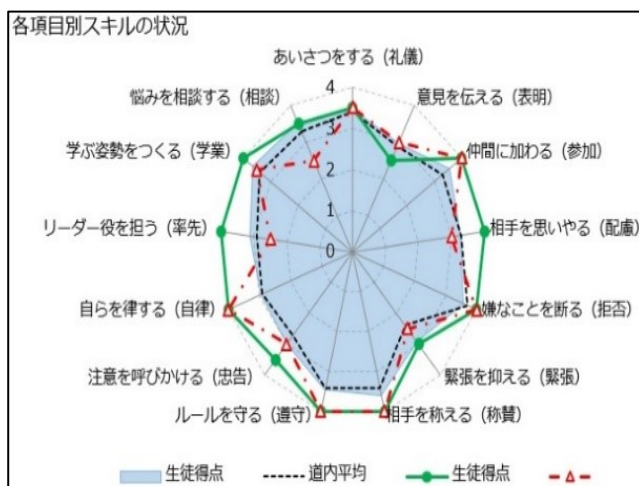
- 実践の概要
 - ・自殺予防の知識等を身に付けることを目指し、保健体育科や特別活動の授業において、長期休業前後の「心と身体のチェック」の結果を示し、自殺予防の正しい知識として、自殺は個人の問題ではなく、周囲の環境（人と場）によるものであり、きっかけはいじめだけとは限らないことについて、理解を深めるとともに、心理的不安の要因及び解消に向けた方策について、小集団による演習等を行った。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・心理的不安の要因及び解消に向けた方策について理解を深めることができるよう、ポジティブシンキングがストレスを緩和すること等について、小集団による多様な他者の感じ方や考え方を交流する学習活動を展開した。
- 生徒の変容
 - ・人と話すことに苦手意識がある生徒Aについて、6月と10月に実施した「ほっと」において、「緊張」のポイントが1ポイント増加し、「参加」及び「相談」のポイントが0.5ポイント増加するなど、当該生徒が自己開示し、他者に相談することができるようになってきた。
- 生徒の感想
 - ・不安な気持ちになるには、様々な理由があり、寄り添うことが大事だと分かった。
 - ・相手が「話を聞くよ。」という姿を見せてくれると、自分から相談をしても大丈夫かもしれないと思えた。



【生徒Aの「ほっと」の結果】

C ストレス対処能力の育成

- 実践の概要
 - ・ストレス対処能力の育成を目指し、特別活動において、対人関係のトラブルの場面を想定し、①困り感を楽観的に考え直すこと、②失敗は未来に向けた経験値として捉えること、③人のせいにならず自分事として受け止め良策を考えること、④「最悪だ」と決めつけず、「なぜそうなったのか？」と冷静に考えられることを柱とした演習等を行った。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・ストレス対処に係る具体的な方策について、理解を深めることができるよう、小集団による実際の場面を想定した演習等を行い、自己理解を基にしたストレス対処に係る具体的な方策について考えることができる学習活動を展開した。
 - ・生徒全員が同じ話題で交流できるよう、学校行事の前に学習活動を設定するとともに、学校行事後、上記4つの柱に基づき、振り返りを実施した。
- 生徒の変容
 - ・主体的に学校生活に参加できない傾向にあった生徒Bについて、6月と10月に実施した「ほっと」において、「率先」のポイントが1.5ポイント増加し、「相談」のポイントが1ポイント増加するなど、行事等で他者と協働しながら、活動に取り組む姿が見られた。
- 生徒の感想
 - ・物事を楽観的に考えられるようになると、苦しさが半減することが理解できた。
 - ・前向きな人はいつも笑顔だと改めて気付き、自分もそうなりたいし、人にも声を掛けたいと思った。



【生徒Bの「ほっと」の結果】